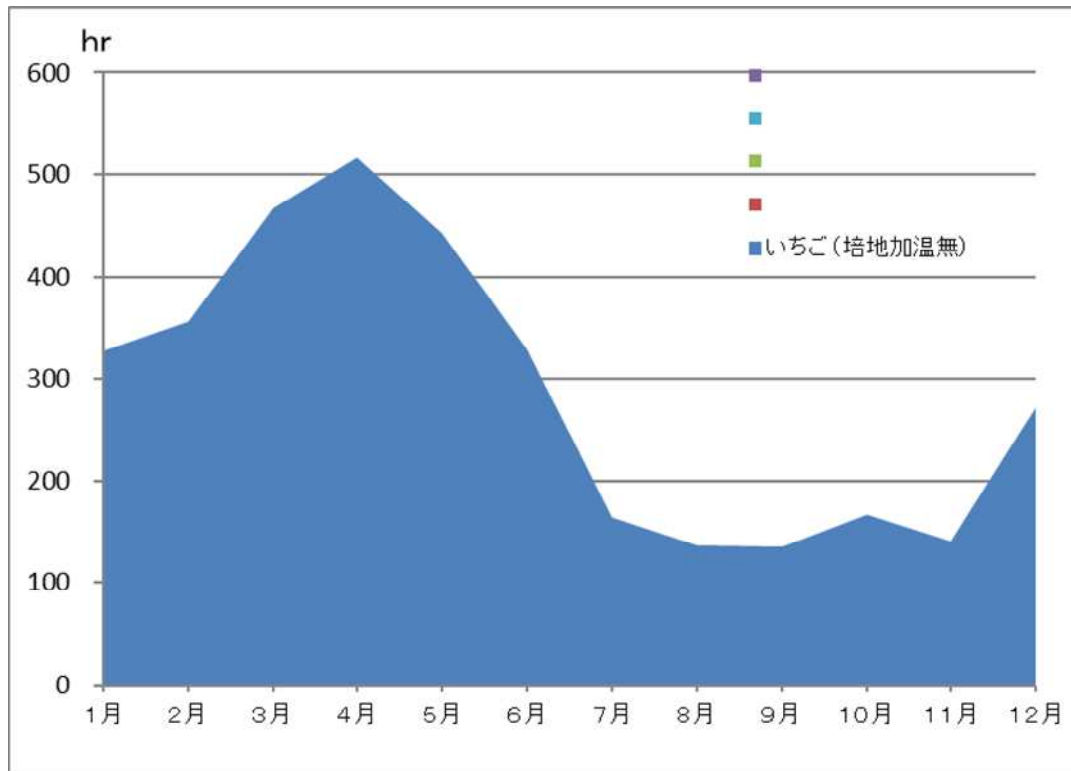


新規就農者モデルの生産概況と栽培・経営のポイント (R5～)
経営面積：22a、労働力：夫婦2名、雇用なし

生産地・面積		佐伯市蒲江、木立、堅田等・6.5ha												
品目 (品種)	いちご (ベリーツ)	単位	備 考											
販売量	10,340	kg/22a	収量: 4,700kg/10a、新規就農者3名の平均から算出											
単価(税込)	1,470	円/kg	新規就農者3名の平均から算出											
販売額(税込)	15,199,800	円/22a												
経 費	11,125,167	円												
原材料費	1,914,072	円/22a	種苗、肥料、農薬など											
施設・機械費	1,668,161	円/22a	光熱費、修繕費など											
減価償却費	2,544,071	円/22a												
出荷販売経費	2,983,710	円/22a	農協・市場手数料、運賃ほか											
専従者給与	960,000	円												
支払地代	100,000	円/22a	農地面積50aを想定、地代: 20,000円/10a											
その他	955,152	円												
所得額	4,074,633	円/22a	左記は就農5年目を想定した数値です											
所得率	27	%												
家計費	2,400,000	円												
税(家計)	450,000	円	所得税、国民健康保険税、自動車税等											
償還財源	3,768,704	円	所得額＋減価償却費－家計費－租税公課(家計)											
償還金	2,703,892	円	就農時に借りた借金の返済(年間)											
差引余剰	1,064,812	円	次年度への繰越金											
(注) 高設ベンチ栽培。調整(パック詰め)は自分で行う。 (注) 償還金は、借入額に応じて変動します。家計費、税(家計)は、家族構成等により変動します。														
作型(作業体系)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考	
				○	育苗管理			圃場準備		◎				
	収穫					片付け							収穫	
栽培のポイント	ハウス	育苗ハウスと、苗を植え、いちごを収穫する本圃のハウスが必要。												
	育苗	年内に親株1000株/10a以上を確保する。親株はビニール被覆した育苗ハウスで管理する。炭疽病とうどんこ病、ハダニの防除を定期的に行う。												
	定植	花芽分化の確認を行い、9月中旬頃本圃に定植する。												
	栽培管理	本圃では、玉だし(いちごの玉に日が当たるように、葉を整理する)を行い、着色の促進をする。また、電照・夜温の適切管理により、越冬期の草勢維持に努める。												
	病虫害	炭疽病、うどんこ病、萎黄病、ヨトウ類、ハダニ類、アザミウマ類など。予防的な対策が重要。												
経営のポイント	単価	近年は、1,300円/kg(税込み)前後。単価は比較的安定している。												
	販売	販売は、農協の県域共販体制が整備されている。佐伯市にはパッケージセンターがあり、パック詰めを委託することができる。(別途費用必要)												
	施設(投資)	裏面の一覧表参照 ハウスや高設システムの仕様によっては、さらに金額が上がる。												
	労働	夫婦2人。主な作業は育苗管理、定植、かん水、施肥、薬剤防除、収穫、パック詰め等。一番大変な作業はパック詰め。												



施設・機械一覧

名称	規模・能力	費用(円)	補助率	自己負担額(円)
いちごハウス(本圃)	22a	76,933,395	2/3	25,644,395
育苗ハウス	9a	19,500,000	2/3	6,500,000
アグリレット	1箇所	500,000	3/4	125,000
選果場兼農機具格納庫	1棟	3,500,000	3/4	875,000
予冷库	1台	1,500,000	3/4	375,000
動力噴霧機	1台	391,000	1/2	361,000
耕運機	1台	220,000		
軽トラック	1台	1,400,000	補助なし	1,400,000
合計		103,944,395		35,280,395

※中古機械を活用することで自己負担額を下げることもできる